



お知らせ

令和3年11月26日

【同時資料提供先】

合同庁舎記者クラブ・島根県政記者会・中国地方建設記者クラブ

令和3年度「手づくり郷土賞」の選定結果について

～中国地方で1件（一般部門）が選定されました～

「手づくり郷土賞」は、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を表彰し、好事例を広く全国に紹介することで、個性的で魅力ある地域づくりに向けた取組が進むことを目的として実施している国土交通大臣表彰です。（参考資料2）

全国各地から応募のあった活動の中から、中国地方では一般部門において1件が選定されましたのでお知らせします。（資料1、資料2）

■中国地方の選定結果

〈一般部門〉

件 名：三江線鉄道公園

～鉄道遺産を活かした「まちづくり」・「インフラツーリズム」の取組～

受賞団体：特定非営利活動法人 江の川鐵道

※認定証授与式に関する 詳細については、後日記者発表を行う予定 です。

■全国の選定結果

令和3年度「手づくり郷土賞」選定結果

部門	件数
一般部門	12件
大賞部門	1件

※全国の選定結果については、国土交通本省において同日付で記者発表をしています。

■手づくり郷土賞受賞記念発表会 2020-2021

全国に優れた取組が広がることを目的に、手づくり郷土賞の受賞者から活動の紹介を行って頂く「手づくり郷土賞受賞記念発表会 2020-2021」を12月18日（土）に開催します。

（参考資料1）

【問い合わせ先】

国土交通省中国地方整備局

TEL (082) 221-9231（代表）

（担当）企画部 広域計画課長

高口 敏弘（内線3211）

課長補佐

今田 修（内線3212）

令和3年度 手づくり郷土賞 選定結果

<一般部門：12件>

No	都道府県	市区町村	応募案件名	応募者	
				地域活動団体	社会資本管理団体
1	北海道	利尻町	”資源蘇生”未利用資源を活かした地域づくり ～海藻アートの独自文化と子どもたちへの継承～	NPO法人利尻ふる里・島づくりセンター	—
2	長野県	安曇野市	絶滅危惧種の地域への拡大を目指して ～オオルリシジミを市民の手で郷土に復活～	岩原の自然と文化を守り育てる会	—
3	静岡県	川根本町	接岨湖(長島ダム湖)で町を元気に!	一般社団法人 エコティかわね	—
4	長野県	飯田市	天竜川総合学習館発「川に親しむ河童人づくり」 ～水辺空間を多様な体験学習に活用～	天竜川総合学習館 かわらんべ	中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
5	京都府	亀岡市	京都・亀岡 ～保津川のプラごみをなくそう～	川と海つながり共創プロジェクト	—
6	京都府	向日市	「竹の径」に倣え「藪の径」景観づくり ～市民による手づくり郷土ランドスケープ～	藪の傍	—
7	兵庫県	姫路市	姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業 ～SDGsの理念の実現と学校を核とした郷土づくり～	白鷺学校運営協議会	—
8	島根県	邑南町	三江線鉄道公園 ～鉄道遺産を活かした「まちづくり」・「インフラツーリズム」の取組～	特定非営利活動法人 江の川鐵道	邑南町
9	佐賀県	伊万里市	水辺施設「ウォーターフロントこまなき」 ～自然との共生と利活用～	駒鳴集落を守る会	—
10	佐賀県	鹿島市	森里川海干潟をつなぐまちづくり ～有明海再生に向けて～	鹿島市ラムサール条約推進協議会	鹿島市
11	長崎県	雲仙市	ジャカランダで子供達が誇れるふるさとづくり	小浜温泉57	—
12	熊本県	南阿蘇村	南阿蘇・立野ダムインフラツーリズムの実践 ～地元密着・自立運営型での商品開発と運営～	一般社団法人みなみあそ観光局	—

<大賞部門：1件>

No	都道府県	市区町村	応募案件名	応募者	
				地域活動団体	社会資本管理団体
1	北海道	美幌町	手づくり魚道の完成が出発点! ～SDGs時代の川との付き合い方～	駒生川に魚道をつくる会	—

No. 8

(島根県・邑南町)

三江線鉄道公園

～鉄道遺産を活かした「まちづくり」・「インフラツーリズム」の取組～



宇都井駅でのトロッキ運行



鉄道遺産を活用したイルミネーションイベント(INAKAイルミ)

<活動内容>

平成30年に廃線となったJR三江線。存続を目指して活動してきた9団体の代表が、「廃線になっても地域がなくなるわけではない」と平成30年に「江の川鐵道」を発足。邑南町がJRから譲渡を受けた鉄道施設を維持管理しながら、鉄道遺産を活かしたまちづくりに取り組んでおり、トロッキ列車の運行や5000人超の来場があるイルミネーションイベント(令和2年YouTube番組の再生回数2500回)を開催するなど賑わいを創出。「天空の駅」の異名を持つ宇都井駅を始め貴重な鉄道遺産はインフラツーリズムとしても好評。

<地域活動団体>

特定非営利活動法人 江の川鐵道

令和3年度 手づくり郷土賞【一般部門】 選定案件概要（全12件）

No. 1 (北海道・利尻町) 「資源蘇生」未利用資源を活かした地域づくり ～海藻アートの独自文化と子どもたちへの継承～



海藻押し葉体験工房



島の駅と雪まるだ灯りフェスティバル

<活動内容>

「資源蘇生」をコンセプトに海の厄介者である雑海藻をアートの素材として活用することで独自文化を確立し、子どもたちに豊かな自然環境を継承する地域づくり活動をスタート。小中高生を対象とした海藻押し葉の体験教室、親子体験会等の取組を通じて次世代を担う子どもたちなどの郷土愛を育んでいる。商店街に位置する歴史的建築物を拠点「利尻 島の駅」として再生したことで観光客等の往来が活発化、コロナ前の2019年には利用者が7千人を上回る。また、島の駅前の町道を活用した「雪まるだ灯りフェスティバル」等各種イベントを開催するなど、地域活性化を図っている。

<地域活動団体>

NPO法人利尻ふる里・島づくりセンター

No. 2 (長野県・安曇野市) 絶滅危惧種の地域への拡大を目指して ～オオルリシジミを市民の手で郷土に復活～



クララ苗配布会



サンクチュアリでのオオルリシジミ
観察会と調査の状況

<活動内容>

岩原を舞台とする活動により国営アルプスあづみの公園内外が発展することを目指して、岩原区民約10名を発起人にして出発。国・県・安曇野市が絶滅危惧種に指定するオオルリシジミをかつての分布域に戻して、保護するための活動を行っている。学習会の開催、オオルリシジミ乱獲防止のパトロールを実施し、オオルリシジミ観察会・食草クララの植栽イベントに協力している。食草クララのポット苗の配布イベント参加者数は1,500名以上となり、市民ぐるみの活動に発展するなど地域活動に寄与している。

<地域活動団体>

岩原の自然と文化を守り育てる会

No. 3 (静岡県・川根本町) 接岨湖(長島ダム湖)で町を元気に！



エコツーリズム(カヤック体験)



ダムの役割学習(ダム内の見学)

<活動内容>

長島ダムがある川根本町は、都市部と比較してアクセス面で劣るが、ダム湖及び周辺の自然は魅力的な場所である。この魅力を町外の人に伝えることで、この町に興味を持つ人を増やし、地域活性化を図りたい思いから、平成28年に(一社)エコティかわねを設立し取り組みを開始。ダム湖を活かしたエコツーリズムと環境学習、自然観察や散策、ダムの役割の学習などを実施しており、令和2年は町内外から370人が参加。これら活動は地域の賑わい創出はもとより、取り組みに参画する地元住民、移住者、町外住民のコミュニティの場となっている。

<地域活動団体>

一般社団法人 エコティかわね

No. 4 (長野県・飯田市) 天竜川総合学習館発「川に親しむ河童人づくり」 ～水辺空間を多様な体験学習に活用～



親子で参加する防災講座



総合学習(水辺の昆虫探し)

<活動内容>

「天竜川総合学習館」は、水災害の防災拠点として平成14年7月に開館した。本施設は水防災に対する住民意識の醸成や水辺環境の果たす役割の総合的な学習を目的として発足した。地元研究者や防災の専門家と連携した防災講座や、地域の子ども等にも天竜川水辺の特性に着目した災害・生物・環境など十数分野にて年間100回以上の総合学習を実施しており、総合学習には年間約3000人が参加している。地域住民の防災意識の向上や地域のコミュニティ活動として地域活性化に寄与している。

<地域活動団体>

天竜川総合学習館 かわらんべ

No. 5 (京都府・亀岡市) 京都・亀岡 ～保津川のプラごみをなくそう～



『子ども海ごみ探偵団』による保津川清掃活動・ごみ調査活動



『子ども海ごみ探偵団』による舞鶴海岸でのごみ調査活動

<活動内容>

市内を貫流する保津川において、漂着するごみに危機感を抱いた保津川下りの船頭有志により平成16年に清掃活動を開始。その後、様々な団体・企業など19団体と連携し活動を継続している。「こども海ごみ探偵団」では小中学生を対象に、ごみの回収・調査を行っている。また「保津川の日」を制定し、様々な団体を巻き込んだ市民参加型の一大清掃イベントでリユース食器を使う屋台を行い、清掃活動や環境教育を通じて内陸部からの海ごみの発生抑制に取り組んでいる。

<地域活動団体>

川と海つながり共創プロジェクト

No. 6 (京都府・向日市) 「竹の径」に倣え「藪の径」景観づくり ～市民による手づくり郷土ランドスケープ～



市道脇に竹垣を設置し、土砂流出防止・景観向上を図っている



放置竹林を伐開し竹棧敷を作成・合気道の練習などで活用

<活動内容>

当該地域は元タケノコ畑と竹藪道が文化的景観・風致に優れた地域であったが、高齢化・竹産業の衰退により放置竹林が顕著となり、景観の悪化・住環境への悪影響を及ぼしていた。平成29年より常時20人程度で竹藪道(市道)、放置竹林(約2ha)の整備。間伐竹で冒険小屋・茶室・竹棧敷・市道竹垣を製作、タケノコ栽培教室開催、メンマづくりを通じ食利用による竹林整備等を実施。これら美化活動・間伐竹での製作活動・イベントを通して、竹文化の継承・地域の活性化に取り組んでいる。

<地域活動団体>

藪の傍

令和3年度手づくり郷土賞【一般部門】 選定案件概要（全12件）

No. 7 (兵庫県・姫路市) 姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業 ～SDGsの理念の実現と学校を核とした郷土づくり～



小学生が地域ボランティアと一緒にプランターづくり



小学生が地域ボランティアと道路沿いにプランターを設置

<活動内容>

都市開発で地域に新たな住民が増加し、世代間の交流・地域リーダーの育成・新しい地域文化構築が必要であった中、ジャコウアゲハが飛び交った400年前の城下の再現を目標に、小学生がつなぎ役となり、蜜源植物の苗作り・移植活動を新旧住民で構成する地域ボランティアと協力して実施。当地区は国の特別史跡姫路城跡を含む都市公園に指定され、一般的なビオトープが設置できない制約がある中、公園内の「しらさぎの小径」に隣接した学校敷地や姫路公園を含む中曲輪地域を中心に周辺施設と協力し、設置場所を拡大するなど、地域の連携向上・魅力向上に努めている。

<地域活動団体>

白鷺学校運営協議会

No. 8 (島根県・邑南町) 三江線鉄道公園 ～鉄道遺産を活かした「まちづくり」・「インフラツーリズム」の取組～



宇都井駅でのトロッキ運行



鉄道遺産を活用したイルミネーションイベント(INKAイルミ)

<活動内容>

平成30年に廃線となったJR三江線。存続を目指して活動してきた9団体の代表が、「廃線になっても地域がなくなるわけではない」と平成30年に「江の川鉄道」を発足。邑南町がJRから譲渡を受けた鉄道施設を維持管理しながら、鉄道遺産を活かしたまちづくりに取り組んでおり、トロッキ列車の運行や5000人超の来場があるイルミネーションイベント（令和2年YouTube番組の再生回数2500回）を開催するなど賑わいを創出。「天空の駅」の異名を持つ宇都井駅を始め貴重な鉄道遺産はインフラツーリズムとしても好評。

<地域活動団体>

特定非営利活動法人 江の川鉄道

No. 9 (佐賀県・伊万里市) 水辺施設「ウォーターフロントこまなき」 ～自然との共生と利活用～



環境学習
「ふるさとのみずべあそぼう！」



「ふるさとのみずべあそぼう！」
カヌー・サップ体験

<活動内容>

駒鳴付近で大きく蛇行している松浦川は、捷水路が平成16年度に完成。「自然との共生」をモットーに旧河川の自然環境保護及び利活用を図るため、地元住民で「駒鳴集落を守る会」を立ち上げ。「ウォーターフロントこまなき」は、かわまちづくり事業として整備され、平成28年5月に完成し、水辺とふれあえる場の整備から、「環境学習」「自然体験活動」「地域住民による美化活動」等を実施することにより住民の郷土理解を更に深め、少子高齢化が進んでいる駒鳴地区のまちおこし・活性化を目指し活動を行っている。

<地域活動団体>

駒鳴集落を守る会

No. 10 (佐賀県・鹿島市) 森里川海干潟をつなぐまちづくり ～有明海再生に向けて～



環境教育プログラム 干潟体験



スポGOMI大会(開会式)

<活動内容>

平成27年5月に「肥前鹿島干潟」がラムサール条約登録湿地となり、干潟を支えている鹿島市の自然保全、啓発、利活用を図る目的で活動しており、環境教育(市内全小学校でプログラム化し、野鳥観察では干潟案内人が説明)を実施し、海岸堤防を活用した健康づくり[肥前鹿島干潟リレーマラソン大会(約1,000人参加)、スポーツゴミ拾い大会(150人参加)]など鹿島市の自然に対する清掃活動や自然景観の向上、子供たちへの環境教育など、自由で多様な市民活動を年間を通じて他団体とともにやっている。

<地域活動団体>

鹿島市ラムサール条約推進協議会

No. 11 (長崎県・雲仙市) ジャカラндаで子供達が誇れるふるさとづくり



ジャカラндаを卒業記念植樹



ジャカラндаフェスタの観光客

<活動内容>

平成18年より「小浜温泉57」を立ち上げ、国道57号を含む小浜温泉街周辺において道路環境美化活動を開始。ジャカラндаを活かした地域活性化の活動として、「ジャカラнда通り」の街路樹にジャカラндаを平成21年より植樹し管理。現在では約500本のジャカラндаが育っており、花が咲く6月のジャカラндаフェスタに約1万人がジャカラндаを目当てに訪れる。また、地元小学校の児童に種から苗を育てる体験を行い、卒業記念植樹でジャカラндаを植え、故郷には自慢できるものがあると思ってもらうように活動。

<地域活動団体>

小浜温泉57

No. 12 (熊本県・南阿蘇村) 南阿蘇・立野ダムインフラツーリズムの実践 ～地元密着・自立運営型での商品開発と運営～



立野ダムガイド現地研修



地元住民との交流付きダムツアー

<活動内容>

2019年より地域住民から「立野ダムガイド」の研修・育成を実施し11名を認定。立野ダムガイドと一緒にJTBやクラブツーリズムなどと連携したツアー商品を開発している。教育旅行の一環として立野ダムと熊本地震震災遺構から地震と水災害への防災を学ぶツアープログラムを実施しており、これまでに15回以上(累計1,000名)の企画・ツアー催行を実施。その他、立野ダムのPRを行うためのリーフレットの作成・配布を行い、立野ダムの意義を学んでもらうための「白川・阿蘇・立野スタンブラー」なども行っている。

<地域活動団体>

一般社団法人みなみあそ観光局

No. 1 (北海道・美幌町)

手づくり魚道の完成が出发点！
～SDGs時代の川との付き合い方～



ポータブル魚道の設置



マイクロプラスチック調査

<活動内容>

落差工の設置により、駒生川上流に魚がいなくなったことを受け「上流に魚を呼び戻そう」との思いを共にするメンバーを中心に活動が始動。魚道づくりには、地域住民等、延べ230名を超える方が参加。近年は、河川水中のマイクロプラスチックについて、地元の高校と連携して、川の汚染状況等について調査を開始、今後プラスチックの使用量削減を目指す。また、手軽さを兼ね備えたポータブル魚道の開発・設置を新たに実施。地元に限らず、他地域への普及を進める。豊かな環境や資源を将来に残すべく、さらなるSDGs(持続可能な開発目標)に係る活動の発展に取り組んでいる。

<地域活動団体>

駒生川に魚道をつくる会

国土交通省大臣表彰



全国の地域づくりに
関心のある方へのメッセージ



手づくり

入場
無料

令和3年12月18日(土)
12時30分～16時30分(予定)
東京国際交流館プラザ平成
国際交流会議場
東京都江東区青海2-2-1

ふるさと
郷土賞
受賞記念発表会
2020-2021



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure and Transport

◆「手づくり郷土賞」とは

地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれらと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的として、昭和61年度に創設され、令和3年度で36回目の開催となる国土交通大臣表彰です。

◆手づくり郷土賞受賞記念発表会について

第35回・第36回手づくり郷土賞を受賞した、優れた地域づくりに取り組む団体が全国から結集し、プレゼンテーションを行い、委員・来場者の投票によりベストプレゼン賞を決定します。

なお、受賞団体の活動内容や発表会の様子はFacebookやホームページでも情報発信します。

開催日時 令和3年12月18日(土)12:30~16:30(予定)

スケジュール ●開会

●第35回(令和2年度)受賞団体によるプレゼンテーション

●第36回(令和3年度)受賞団体によるプレゼンテーション

●ベストプレゼン賞の発表

●閉会

※令和2年度(第35回)及び令和3年度(第36回)の受賞記念発表会を同時開催します。

※終了時間はプレゼンテーション参加団体数に応じて、変更になる場合がございます。

※プレゼンテーションは、当日会場で発表を行う「発表部門」と事前に撮影した動画による「動画部門」の2部門に分けて実施予定です。



お申込み方法

会場観覧またはオンライン視聴によりご参加いただけます。

・会場観覧をご希望の方は、下記サイトより事前にお申込みください。

・オンライン視聴をご希望の方は、下記サイトから視聴いただけます。

申込みは不要ですが、CPD単位取得*をご希望の方は下記サイトより事前にお申込みください。

<https://tedukuri-furusato.jp>

※建設コンサルタンツ協会CPD・土木学会CPD・都市計画CPDの認定プログラム申請中

こちらからも
アクセスできます▶



お申込み締切

令和3年12月10日(金)17時 会場観覧定員:200名

※定員になり次第、締め切らせていただきます。

開催会場

東京国際交流館プラザ平成 国際交流会議場

所在地:〒135-8630 東京都江東区青海2-2-1

アクセス:ゆりかもめ「東京国際クルーズターミナル」東口より 徒歩約3分

りんかい線「東京テレポート」B出口より 徒歩約15分

お問い合わせ先

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課

メール:hqt-tedukuri-sogo@gxb.mlit.go.jp

FAX:03-5253-1551

※送信するメールの件名は、「手づくり郷土賞受賞記念発表会2020-2021」の問い合わせとしてください。



手づくり郷土賞の情報はこちら

手づくり郷土賞ホームページ

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/>



手づくり郷土賞フェイスブック

<https://ja-jp.facebook.com/mlit.tedukuri/>



◆手づくり郷土賞の概要

地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰制度。令和3年度で36回目。

【一般部門】

はじめて受賞する団体を対象とした部門

【大賞部門】

過去に受賞した団体で、その後の活動が発展している団体を対象とした部門

(参考)手づくり郷土賞の過去の受賞案件は以下のURLに掲載しています。

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/>

◆手づくり郷土賞選定委員会

有識者からなる手づくり郷土賞選定委員会により、幅広い観点から審査し選定します。

手づくり郷土賞選定委員会（令和3年度）

委員長	秋田 典子	千葉大学大学院園芸学研究院 教授
委員	河野 まゆ子	株式会社JTB総合研究所 主席研究員
委員	斉藤 俊幸	地域再生マネージャー
委員	坂元 英俊	一般社団法人 地域観光研究所 代表理事
委員	真田 純子	東京工業大学 准教授
委員	野澤 康	工学院大学 副学長

(敬称略)